

### Ⅲ 調査結果のまとめ

- 1 愛媛県下の全病院（142 施設）および全有床診療所（192 施設、歯科医療施設を除く）の全入院患者について調査を行い、病院 140 施設、有床診療所（入院患者がなかった施設を除く）120 施設、計 260 施設から回答が得られた。
- 2 回答数（入院患者数）は男性 8,099（人）、女性 10,473（人）の計 18,572（人）であり、前回調査（平成 22 年）と比べて、男性が 1,370（人）、女性 1,556（人）、総数 2,957（人）の減であった。
- 3 受療の種類別に分布をみると、新入院 5.3%（前回調査 3.2%）、繰越入院 94.7%（同 95.3%）で、病院に 92.4%（同 90.4%）、診療所に 7.6%（同 9.6%）の患者が入院しており、病院に入院する患者の比率が高まっていた。
- 4 入院受療率は、前回調査と比べ、1～4 歳、30～34 歳以外の全ての年齢階級において低下している。入院患者数の内訳は、65 歳以上が 74.6%、75 歳以上が 54.9%を占めており、前回調査と比べ、高齢者の割合が上昇している。
- 5 入院受療率を圏域別にみると、今治圏域、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域が高く、松山圏域、宇摩圏域が低い傾向がある。前回調査と比較すると、全ての圏域で低下している。
- 6 入院患者の紹介の有無をみると、病院では 50.8%、診療所では 37.9%が他施設からの紹介を受けており、その割合は前回調査と比べると微減している。
- 7 入院患者の状況について、「生命の危険がある」とする者が 5.1%、「生命の危険は少ないが入院治療を要する」者が 75.3%、「受入条件が整えば退院可能」とする者が 15.9%であった。「受入条件が整えば退院可能」は、老人性認知症疾患療養病棟で 60.7%、その他の精神病床で 33.4%、診療所の療養病床（医療保険適用病床）で 31.4%、診療所の療養病床（介護保険適用病床）で 19.3%となっている。

過去の入院の状況については、過去入院有が 10.8%、無が 89.2%であった。傷病大分類別では「精神及び行動の障害」38.8%、「新生物」14.0%、「神経系の疾患」10.5%などであった。
- 8 老人性認知症疾患療養病棟及び療養病床に入院している患者の心身の状況については、特に「移乗」「排便の後始末」について全介助が必要とする者が約 6 割を占めている。
- 9 傷病（大分類）別に分布をみると、病院では「精神及び行動の障害」20.9%（前回調査 22.1%）、「循環器系の疾患」16.9%（同 18.6%）、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」11.1%（同 10.4%）、「新生物」9.9%（同 10.7%）などとなっており、傷病構造には大きな変化はみられなかった。有床診療所では「循環器系の疾患」22.4%（同 24.1%）、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」17.5%（同 16.9%）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」15.9%（同 14.7%）の順で多かった。
- 10 圏域別の地元入院率は、宇摩圏域、八幡浜・大洲圏域が比較的 low、松山圏域、宇和島圏域では 90%以上と高くなっており、前回調査と比べ大きな変化はない。傷病別では、専門的治療を要する傷病、患者数の少ない傷病等については、地元入院率が低い傾向にあり、圏域間の地元入院率の格差も大きい。
- 11 全入院患者のうち介護保険適用患者の割合は 4.2%である。介護保険適用患者の内訳は、女性が約 7 割、年齢階級別では 85 歳以上が約 6 割を占めている。介護保険適用患者の診療科目は、内科が 81.0%、傷病大分類別では、「循環器系の疾患」が 54.6%と、特定の診療科、疾患に集中する傾向が見受けられる。

療養病床に入院する患者について、「生命の危険は少ないが入院治療を要する」者は、介護保険適用患者 63.2%、介護保険適用以外の者が 78.9%である。

老人性認知症疾患療養病棟及び療養病床の入院患者の心身の状況は、「移乗」等全ての項目において、介護保険適用患者の介護を要する割合が介護保険適用以外の患者を上回っている。